
データの同期と共有 ユーザ ガイド

[FAMILY Given]

データの同期と共有: ユーザ ガイド

[FAMILY Given]

発行日 火曜日, 01. 2 月 2022

製作著作 © OX Software GmbH。 このドキュメントは OX Software GmbH の知的所有物です。

このドキュメントの全部または一部をコピーする場合、各コピーにこの著作権情報を明記する必要があります。このドキュメントの内容は細心の注意を払って編集されていますが、情報の誤りを完全に排除することはできません。OX Software GmbH、著者、および翻訳者は、記述の誤りとそれによって生じる結果について、いかなる責任も負うものではありません。このドキュメントで使用されるソフトウェアの名称およびハードウェアの名称は登録商標である可能性があり、無償での使用が保証されているものではありません。OX Software GmbH は原則的に、製造元によるつづりの表記に従います。このドキュメントでは（注釈を付記せずとも）ブランド名、商標、ロゴなどを使用していますが、（商標とブランド名に関する法律により、）これらのブランド名等を無償で使用できることを示すものではありません。

目次

1 このドキュメントについて	5
2 Driveアプリケーションの用途	7
3 Drive アプリケーションをインストールします。	9
3.1 コンピューターでの設定	10
3.2 モバイルデバイスへのインストール	11
4 Drive アプリケーションを使用します。	13
4.1 Windows または macOS コンピューター	14
4.1.1 同期データを表示します	15
4.1.2 同期データを変更	15
4.1.3 macOSのFinder Extensionを有効にする	16
4.1.4 ブラウザにファイルを表示	16
4.1.5 ブラウザでOffice ドキュメントを編集	16
4.1.6 Windows、データを共有	17
4.1.7 macOS、パブリックリンクを使った共有	18
4.1.8 macOS、共有アイテムへの招待	19
4.1.9 同期を一時停止	20
4.1.10 Driveアプリケーションを閉じる	20
4.1.11 コンピューターでの設定	21
4.2 Android モバイルデバイス	23
4.2.1 オブジェクトの閲覧、検索、ソート	24
4.2.2 オフラインでオブジェクトを利用可能にする	25
4.2.3 新規オブジェクトの作成	25
4.2.4 オブジェクトを管理	26
4.2.5 ブラウザでOffice ドキュメントを編集	27
4.2.6 ファイルをモバイルデバイスにエクスポートする	27
4.2.7 オブジェクトの共有	28
4.2.8 写真やビデオのための特殊な機能を使用	29
4.2.9 Androidモバイルデバイス上での設定	30
4.3 iOSモバイルデバイス	31
4.3.1 iOSモバイルデバイス用Driveアプリケーションのプロパティ	32
4.3.2 iOSモバイルデバイス用Driveアプリケーションを使用する	32
4.4 利用ガイドライン	34
索引	35

1 このドキュメントについて

このドキュメントを活用するために理解しておくべき情報を次のトピックごとに説明します。

このドキュメントの対象読者

このドキュメントは、コンピューターまたはモバイルデバイスのファイルやフォルダを Drive アプリケーションを使ってグループウェアサーバと同期したいユーザを対象にしています。

このドキュメントの前提は何ですか？

このドキュメントはユーザがモバイルデバイスを使うことができるという前提で書かれています。

このドキュメントに記載されている内容

このドキュメントは、次の情報が含まれます。

- [Drive アプリケーションの用途](#)では、Drive アプリケーションの使用方法について説明します。
- [Drive アプリケーションをインストールします。](#) では、お使いのシステムに Drive アプリケーションをインストールおよびセットアップする方法について説明します。
- [Drive アプリケーションを使用します。](#) では、Drive アプリケーションの実際の使用方法について説明します。

このドキュメントでは、グループウェアの一般的なインストール方法と構成方法について説明します。ご利用のグループウェアのインストールバージョンならびに構成によって、記載の方法と異なる場合があります。

その他のヘルプ

グループウェアに関する全般的な情報は、Groupware のユーザガイドを参照してください。

2 Driveアプリケーションの用途

Driveアプリケーションはお使いのコンピューターまたはモバイルデバイスへローカルにインストールされなければなりません。Driveアプリケーションを使って、サーバ上のファイルやフォルダにアクセスできます。Driveアプリケーションはローカルマシン/モバイルデバイスとサーバ間でデータの同期が行えます。同期するデータを指定します。

- コンピューターで同期するには、次のフォルダを指定しなければなりません。
 - お使いのコンピューター上にあるローカル フォルダ。
 - Groupware サーバ上の1つ以上のフォルダ
- Androidモバイルデバイスではさらに写真やビデオをサーバへアップロードすることも指定できます。この機能はカメラアップロードといいます。

サーバに適用した変更は、コンピューターとモバイルデバイスに反映されます。コンピューターとモバイルデバイスに適用した変更は、サーバとその他のデバイスに反映されます。

サーバ構成によっては、コンピューター上の次のフォルダを同期するように選択できます：

- 個人用フォルダー
- パブリックフォルダ、共有フォルダ

モバイル デバイスでは、プライベートフォルダの内容のみが同期されます。

読み取りまたは編集アクセスのあるファイルおよびフォルダを共有することによって、他のユーザまたは外部のパートナーと協力するにはDriveアプリケーションを使うことができます。

次のシステムがサポートされています：

- Windows
- macOS
- iOS
- Android

3 Drive アプリケーションをインストールします。



Driveアプリケーションのインストールの仕方を学ぶ：

- [コンピューターでの設定 \(p. 10\)](#)
- [モバイルデバイスへのインストール \(p. 11\)](#)

注：この機能を使用するには、グループウェアサーバで、Driveを利用可能にする必要があります。詳細は、管理者またはホスティング事業者にお問い合わせください。

3.1 コンピューターでの設定

コンピューターでDriveアプリケーションをインストールする

1. グループウェアを使用して、ご利用のシステム [7]に適したインストールプログラムをダウンロードします。Groupware サーバ構成によって、次のオプションがあります：
 - メニューバーの右側の設定アイコンをクリックします。メニューのご利用のデバイスを接続をクリックします。
ウィザードが起動します。ウィザードの指示に従ってください。
 - メニューバーの右側の設定アイコンをクリックします。メニューで、設定の項目をクリックします。サイドバーで、ダウンロード をクリックします。
表示エリアのダウンロードの指示に従ってください。Groupware サーバの構成によっては、インストール情報のDriveウィジェットがポータル ページに表示されます。
 2. インストール プログラムを起動します。ウィザードでは、手順ごとに説明が表示されます。画面の指示に従います。
インストールが完了するとすぐに、セットアップ ウィザード が表示されます。
 3. *Welcome to* ドライブページの指示に従ってください。コンピューターによって、次の詳細が入力できます。
 - ご利用のGroupwareサーバーユーザー名またはメールアドレス
 - ご利用のGroupware サーバーのパスワード次へをクリックします。
サーバー URLが決定できない場合、検索されます。
 4. 次の手順で、同期するフォルダーやフォルダーを保存するコンピューター上の場所の設定ができます。そのために、フォルダ設定の調整をクリックします。
macOSコンピューターでは、システム起動を実行を有効にできます。
 5. macOSコンピューターでは、Finder Extension を有効にする指示に従ってください。
設定を完了するには 開始をクリックします。
- 結果：フォルダが同期されます。データ量によって、このプロセスに多少時間がかかることがあります。

3.2 モバイルデバイスへのインストール

コンピューターでDriveアプリケーションをインストールする

1. ご利用のモバイルデバイスのアプリケーション ストアにアクセスします。Drive アプリケーションをインストールします。
グループウェア設定のサイドバーにある **ダウンロード** をクリックすると、Groupware サーバにダウンロード リンクが表示されます。
Groupware サーバの構成によっては、アプリケーション ストアへのリンクウィジェットがポータルページに表示されます。
2. インストールが完了すると、ウィザードが起動し、次に行う手順が指示されます。
 - グループウェアサーバのサーバ URL を入力します。
 - グループウェアサーバの認証情報を使用します。
 - Androidモバイルデバイスでは写真やビデオをグループウェアサーバにアップロードするかどうかを指定できます。あとで設定の機能を有効、もしくは無効にすることができます。

Driveアプリケーションバージョンによって、設定完了後の動作が異なります。

- Androidバージョンをインストールした場合、個人用DriveフォルダーがDriveアプリケーションに表示されます。
- iOSバージョンをインストールした場合、Driveを保存場所としてiOSファイル Appに追加することを求められます。
これが完了するとすぐ、個人用DriveフォルダーがiOSファイル Appに表示されます。

4 Drive アプリケーションを使用します。

Driveアプリケーションをインストールするとすぐにバックグラウンドで動作しますので、ユーザは何も操作する必要はありません。ただし、情報の確認や構成する際は、それらの機能を使用できます。Drive アプリケーションをコンピューターで使用するか、モバイルデバイスで使用するかによって使用可能な機能が異なります。

- [Windows または macOS コンピューター \(p. 14\)](#)
- [Android モバイルデバイス \(p. 23\)](#)
- [iOSモバイルデバイス \(p. 31\)](#)
- [利用ガイドライン \(p. 34\)](#)

4.1 Windows または macOS コンピューター

Windows または macOS コンピューターで、次の機能が利用できます。

- 同期データを表示します (p. 15)
- 同期データを変更 (p. 15)
- macOSのFinder Extensionを有効にする (p. 16)
macOSコンピューターでは、開く機能や共有機能を利用する前にFinder Extension を有効にしてください。
- ブラウザにファイルを表示 (p. 16)
- ブラウザでOffice ドキュメントを編集 (p. 16)
- 他のユーザまたは外部パートナーとのファイルおよびフォルダの共有できます：
 - Windows、データを共有 (p. 17)
データは特定の人を招待するか、パブリックリンクを指定すると、共有されます。
 - macOS、パブリックリンクを使った共有 (p. 18)
そのリンクをパートナーに送ることができます。データは読み取り権限で共有されます。
 - macOS、共有アイテムへの招待 (p. 19)
データは読み取り権限または編集権限で内部ユーザまたは外部パートナーと共有されます。
- 同期を一時停止 (p. 20)
- Driveアプリケーションを閉じる (p. 20)
- コンピューターでの設定 (p. 21)

4.1.1 同期データを表示します

同期データを表示

1. Drive アイコンのコンテキスト メニューを開きます。
Driveアイコンは、こちらを参照してください：
 - Windowsシステム：タスクバーの通知エリア
 - macOSシステム：メニューバーのステータスメニュー
2. コンテキストメニューでは、次の機能を使用します：
 - Windows システムの場合：
以前に変更されたデータの一覧を表示するには、以前に変更されたデータを選択します。
Windows Explorerでローカルフォルダーを開くには、有効なDrive フォルダを開くを選択します。
 - macOS システムの場合：
Mac Finderでローカルフォルダーを開くには、Drive フォルダを開くを選択します。

関連トピック

[同期データを変更 \(p. 15\)](#)

4.1.2 同期データを変更

同期フォルダーを変更するには、次のことができます：

- ローカルフォルダーの場所を変更できます。
- 同期するフォルダーを指定します。

同期するフォルダを変更する

1. Drive アイコンのコンテキスト メニューを開きます。
Driveアイコンは、こちらを参照してください：
 - Windowsシステム：タスクバーの通知エリア
 - macOSシステム：メニューバーのステータスメニュー
2. コンテキストメニューから設定を選択します。
3. 設定ウィンドウのアカウントを選択します。次のアクションを行います。
 - Windows システムの場合：
ローカルフォルダーの保存場所の隣にある変更をクリックします。お使いのコンピューター上にあるローカル フォルダを選択します。
同期フォルダーの隣にある変更をクリックします。同期するフォルダーを指定します。
 - macOS システムの場合：
同期フォルダーの隣にある変更をクリックします。同期するフォルダーを指定します。

データ量によって、同期に多少時間がかかることがあります。

関連トピック

[同期データを表示します \(p. 15\)](#)

4.1.3 macOSのFinder Extensionを有効にする

Office 文書を開いたり、Finder のヘルプでオブジェクトをmacOS コンピューターで共有できるようにするには、DriveFinder Extensionを有効にしてください。

アプリケーションを設定するときにDrive Finder Extension がすでに有効な場合にはこれは必要ありません。

macOS コンピューターでDrive Finder Extension を有効にする：

1. システム環境設定を開きます。システム環境設定ウィンドウでExtensionsを選択します。
2. Extensionsウィンドウで、Finderを選択します。Drive Finder Extensionを有効にします。

関連トピック

- [ブラウザにファイルを表示 \(p. 16\)](#)
- [ブラウザでOffice ドキュメントを編集 \(p. 16\)](#)
- [macOS、パブリックリンクを使った共有 \(p. 18\)](#)
- [macOS、共有アイテムへの招待 \(p. 19\)](#)

4.1.4 ブラウザにファイルを表示

ブラウザにローカルDriveフォルダからファイルを開くこの機能は グループウェアがファイル形式の表示をサポートしている場合にのみ利用できます。

ブラウザにファイルを表示する

注：この機能をmacOSコンピューターで使う前にDriveFinder Extension を有効にしなければなりません。

1. ご利用のシステムのファイルブラウザでローカルDriveフォルダーを開きます。
2. ローカルDriveフォルダでファイルのコンテキストメニューを表示します。
ブラウザで開くを選択します。

結果：グループウェアがブラウザで開きます。ファイルが表示されます。

関連トピック

- [ブラウザでOffice ドキュメントを編集 \(p. 16\)](#)
- [macOSのFinder Extensionを有効にする \(p. 16\)](#)

4.1.5 ブラウザでOffice ドキュメントを編集

グループウェアのローカルDriveフォルダのOfficeドキュメントを表示して、閲覧または編集できます。

Office ドキュメントを開く

注：この機能をmacOSコンピューターで使う前にDriveFinder Extension を有効にしなければなりません。

1. ご利用のシステムのファイルブラウザでローカルDriveフォルダーを開きます。
2. ブラウザで編集を選択します。

結果：グループウェアがブラウザで開きます。それぞれのアプリケーションでファイルが表示されます。

注：Office ドキュメントの編集についての情報は、Documentsのユーザガイドを参照してください。

関連トピック

- [ブラウザにファイルを表示 \(p. 16\)](#)
- [macOSのFinder Extensionを有効にする \(p. 16\)](#)

4.1.6 Windows、データを共有

日付は読み取りアクセスと編集アクセスで内部ユーザと外部パートナーと共に共有ができます。

次のようなオプションの機能があります。

- 内部ユーザーや外部パートナーで読み取り・編集アクセスを持つ人を共有アイテムに招待することで、フォルダーやファイルを共有することができます。一人の人に対して権限を指定します。この人には自動でメールの招待が届きます。
- 加えて、パブリックリンクを作成して、それを別の人に送ることもできます。パブリックリンクを持っている人は、共有データを読むことはできますが、編集はできません。

注：フォルダーを共有した場合、サブフォルダーも自動で共有されます。

データをユーザや外部の人と共有する

1. ローカルDriveフォルダでフォルダまたはファイルのコンテキストメニューを表示します。
2. **共有 / 権限**を選択します。
権限の付与ウィンドウが表示されます。
選択アイテムをすでに共有している場合、次のステップ時に共有パラメータを変更できます。
3. 人を追加するには、**共有に招待**に名前またはメールアドレスを入力します。
 - 人の権限を設定するには、**ビューア**をクリックします。権限を選択します。
 - 人の権限を削除するには、人の隣の右罫線にあるメニューアイコンをクリックします。**削除**をクリックします。個別のメッセージを招待メールに追加するには、それぞれのチェックボックスを有効にします。メッセージを入力します。
4. 特定の人だけでなく、データへのリンクを持っているすべての人とデータを共有したい場合、**パブリックリンク**の下にあるチェックボックスを有効にします。
他のアプリケーションにリンクを挿入するには、**リンクをコピー**をクリックします。
設定を調整するには、**リンク設定**をクリックします。次の設定が利用できます：
 - 共有データへのアクセスに時間制限を設ける場合は、**有効期限**を有効にします。
 - パスワードでアクセスを保護するには、**パスワード保護**のパスワードを入力します。パブリックリンクの受取人がパスワードを受信することを確認してください。
5. **保存**をクリックします。

関連トピック

[macOS、共有アイテムへの招待 \(p. 19\)](#)

[macOS、パブリックリンクを使った共有 \(p. 18\)](#)

4.1.7 macOS、パブリックリンクを使った共有

macOS コンピューターでパブリックリンクを作成すると、読み取りアクセスでデータを共有できます。そのリンクをパートナーに送ることができます。このリンクを得たユーザは、データを見ることができます。

次のようなオプションの機能があります。

- アクセス用のパスワードを設定できます。
- 固有の期間切れたら（例えば1ヶ月）リンクが無効にすることができます。
- パブリックリンクを無効にすることができます。

パブリックリンクを作成すると、読み取りアクセスでデータを共有できます：

注：この機能をmacOSコンピューターで使う前にDriveFinder Extension を有効にしなければなりません。

1. ご利用のシステムのファイルブラウザでローカルDriveフォルダーを開きます。
2. ローカルDriveフォルダでフォルダまたはファイルのコンテキストメニューを表示します。共有リンクを作成を選択します。
ウィンドウが開きます。共有ファイルの読み取りアクセス用のパブリックリンクを含みます。
選択アイテムをすでに共有している場合、次のステップ時に共有パラメータを変更できます。
3. 他のアプリケーションにリンクを挿入するには、リンクをクリップボードにコピーをクリックします。
4. 次のようなオプションの機能があります。
 - 規定では、データは無制限で読み取りアクセスがある状態で共有されます。共有データへのアクセスに時間制限を設ける場合は、リンクの有効期限を有効にします。日付を選択します。
 - パスワードでアクセスを保護する場合はパスワードだけのアクセスを有効にします。パスワードを入力します。パスワードをテキストとして表示するには、パスワードを表示または非表示にするアイコンをクリックします。
メールごとにパブリックリンクを送信する場合、メールにはパスワードが含まれます。
 - 共有アイテムへのアクセスを無効にするには、リンクを削除をクリックします。
5. 完了をクリックします。

関連トピック

[macOS、共有アイテムへの招待 \(p. 19\)](#)

[macOSのFinder Extensionを有効にする \(p. 16\)](#)

[Windows、データを共有 \(p. 17\)](#)

4.1.8 macOS、共有アイテムへの招待

特定の人と読み取りまたは編集アクセスでmacOSコンピューター上のデータを共有するには、内部ユーザーと外部パートナーを共有アイテムへ招待ができます。この人には自動でメールの招待が届きます。外部パートナーが共有ファイルにアクセスする場合、パートナーは自動でゲストユーザとしてログインします。

メールで内部ユーザまたは外部パートナーを共有ファイルに招待する：

注：この機能をmacOSコンピューターで使う前にDriveFinder Extension を有効にしなければなりません。

1. ローカルDriveフォルダでフォルダまたはファイルのコンテキストメニューを表示します。
2. **共有に招待**を選択します。
ウィンドウが開きます。共有アイテムへの招待を行うための機能を提供します。
選択アイテムをすでに共有している場合、次のステップ時に共有パラメータを変更できます。
3. **共有に招待**タブを選択します。+アイコンをクリックします。名前またはメールアドレスを入力します。
受取人を入力しているときに、受取人の候補が表示されます。候補を選択するには、その候補をクリックしてください。メールアドレスは、内部ユーザー、グループ、またはゲストとして一覧に追加されます。既定の許可が付与されます。
個別のメールに個別のテキストを入力できます。
4. 選択アイテムをすでに共有している場合、招待を**管理**タブの許可を変更できます。次のいずれかの方法を使用します。
 - ユーザロールを調節するには、名前の隣にある現在の有効なロールをクリックします。メニューで、目的の項目を選択します。
 - 権限を削除するには、名前の隣にあるそれぞれのアイコンをクリックします。
5. **適用**をクリックします。

関連トピック

[macOS、パブリックリンクを使った共有 \(p. 18\)](#)

[Windows、データを共有 \(p. 17\)](#)

[macOSのFinder Extensionを有効にする \(p. 16\)](#)

4.1.9 同期を一時停止

同期を一時停止して、再開することができます。

同期を一時停止する：

1. Drive アイコンのコンテキスト メニューを開きます。
Driveアイコンは、こちらを参照してください：
 - Windowsシステム：タスクバーの通知エリア
 - macOSシステム：メニューバーのステータスメニュー
2. コンテキストメニューでは、次の機能を使用します：
 - Windows システムの場合：
同期の一時停止を選択します。
同期を再開するには、同期を再開 をクリックします。
 - macOS システムの場合：
一時停止を選択します。
同期を再開するには、再開 をクリックします。

4.1.10 Driveアプリケーションを閉じる

Driveアプリケーションを閉じる：

1. Drive アイコンのコンテキスト メニューを開きます。
Driveアイコンは、こちらを参照してください：
 - Windowsシステム：タスクバーの通知エリア
 - macOSシステム：メニューバーのステータスメニュー
2. ドライブを閉じるを選択

4.1.11 コンピューターでの設定

コンピューターでDriveクライアント設定を使用する：

1. Drive アイコンのコンテキスト メニューを開きます。
2. コンテキスト メニューから設定を選択します。

Windows と macOS では設定は異なります。

環境設定, Windows

- **全般**
 - 言語Driveアプリケーションのユーザ インターフェースの言語を指定します。
 - 自動起動システム起動時にDriveアプリケーションが自動的に起動するかどうかを指定します。
 - Windows Explorer への統合有効な場合、Driveフォルダーのフォルダーとファイルについて、次の機能がWindows Explorerで利用できます。
 - フォルダーとファイルの同期状態が表示されます。
 - フォルダーとファイルのコンテキストメニューからデータを共有できます。
 - ファイルタイプによって、ファイルのコンテキストメニューに、ブラウザにファイルを表示したり、ブラウザでファイルを編集する機能があります。
- **アカウント**

アカウントには、サーバアドレス、ログインデータ、サーバフォルダ、ローカルフォルダ、保存量が含まれます。次の機能が利用できます。

 - 新規プロファイルを作成追加アカウントを作成するためのDriveセットアップ ウィザードを起動します。
 - 一時停止同期を停止します。ボタンが続行に変更されます。
 - ローカルフォルダーの保存場所表示されたフォルダーをクリックすると、Windows Explorerに表示されます。変更をクリックすると、新しい保存場所が選択できます。保存場所を変更すると、同期が再度実行されます。
 - 同期フォルダ変更をクリックすると、このアカウント用に同期するフォルダーを変更できます。
 - アカウントを削除このアカウントに設定されている同期を終了します。アカウントを削除します。
注：この機能を使用すると、データは、ローカルからもサーバからも削除されます。
- **通知**

同期中に発生したエラーを表示します。
- **詳細**

次の機能が利用できます。

 - **デバッグおよび診断**
 - **サーバーログ**この設定が有効になると、グループウェアサーバ通知もログファイルに書き込まれます。
 - **SQLログ**この設定が有効になると、sqlデータベースアクションに関する通知もログファイルに書き込まれます。
 - **ログファイルを表示**既定のテキストエディタに現在のログファイルを表示します。ログファイル内容の範囲は上記設定によって異なります。
 - **ログファイルを保存**ログファイルおよび様々なシステム情報をZIPアーカイブとして保存します。
 - **プロキシ設定**ここでは、プロキシ設定を変更できます。
- **バージョン情報**

Driveアプリケーションバージョンと更新ステータスに関する情報を表示します。

 - バージョン注記、プライバシーポリシー、第三者ソフトウェア、インプリント
 - 自動更新アプリケーションが起動時に新規バージョンであることを確認するかどうかを指定します。
 - 更新が可能です。アプリケーションに現在の更新が含まれるかどうかを表示します。

環境設定, macOS

▪ アカウント

アカウントには、サーバアドレス、ログインデータ、サーバフォルダ、ローカルフォルダ、保存量が含まれます。次の機能が利用できます。

- アカウント名
- **ローカル フォルダー**: ローカルフォルダを表示します。別のローカルフォルダを使用するには、リストをクリックします。ローカルフォルダーのバスを表示するには、リストの隣にあるアイコンをクリックします。
- **同期フォルダー**このアカウントに別のサーバフォルダを使用するには、**変更**をクリックします。
- **サーバー URL**: サーバアドレスを表示します。
サーバーバージョン: サーババージョン番号と保存情報を表示します。
- **サインアウト**このアカウントに設定されている同期を終了します。アカウントを削除します。
注: この機能を使用すると、データは、ローカルからもサーバからも削除されます。

▪ 通知

同期中に発生したエラーを表示します。同期中断の通知があった場合は、**繰り返し**をクリックします。可能であれば、同期が行われます。

▪ 接続

使用しているプロキシの設定を表示します。ここでは、プロキシ設定を変更できます。

▪ バージョン情報

Driveアプリケーションバージョンと更新ステータスに関する情報を表示します。

- バージョン注記、プライバシーポリシー、第三者ソフトウェア、インプリント
- **自動起動**システム起動時にDriveアプリケーションが自動的に起動するかどうかを指定します。
- **診断モード**総合情報をログファイルに書き込むかどうかを指定します。診断モードが無効の場合、簡略した情報のみが書き込まれます。**ログファイルを保存**で、ログファイルをどこにでも保存できます。

4.2 Android モバイルデバイス

Androidモバイルデバイスバージョンは次の機能を提供します：

- [オブジェクトの閲覧、検索、ソート \(p. 24\)](#)
オブジェクトはサーバーまたはモバイルデバイスにあります。
- [オフラインでオブジェクトを利用可能にする \(p. 25\)](#)
オブジェクトがモバイルデバイスへダウンロードされます。
- [新規オブジェクトの作成 \(p. 25\)](#)
オブジェクトはモバイルデバイスで作成し、サーバーにアップロードします。
- [オブジェクトを管理 \(p. 26\)](#)
オブジェクトの移動、名前の変更、削除ができます。変更はサーバーと同期されます。
- [ブラウザでOffice ドキュメントを編集 \(p. 27\)](#)
サーバーのOfficeドキュメントはモバイルデバイスのブラウザで編集できます。
- [ファイルをモバイルデバイスにエクスポートする \(p. 27\)](#)
サーバーのファイルはモバイルデバイスにエクスポートできます。
- [オブジェクトの共有 \(p. 28\)](#)
オブジェクトがそれぞれサーバーに共有されます。
- [写真やビデオのための特殊な機能を使用 \(p. 29\)](#)
- [Androidモバイルデバイス上での設定 \(p. 30\)](#)

4.2.1 オブジェクトの閲覧、検索、ソート

オブジェクトを表示するには、次の機能を使用します：

- すべてのフォルダーのすべてのオブジェクトを表示します。
- 次のオブジェクトのみを表示：画像、最も最近使用したファイル、オフラインで利用可能オブジェクト
- ビューの選択：グリッドまたはリスト
- オブジェクトの検索
- 名前、サイズ、日付でのオブジェクトのソート

Androidモバイルデバイスのオブジェクトを表示する：

1. Drive アプリケーション メニューを開きます。サーバに個人用ファイルまたはフォルダを表示するには、**すべてのファイル**を選択します。

特定のオブジェクトのみを表示するには、その他のビューも利用できます：

- **すべての画像** Driveで利用可能なすべての画像を表示します。
- **最近開いた** は最近開いたファイルのみを表示します。
- **オフライン ファイル** モバイルデバイスにダウンロードしたファイルとフォルダーのみを表示します。データはローカルに保存されます。これにより、サーバ接続がない場合でもデータが利用可能になります。
- **自分の共有ファイル**は共有リンクと、共有オブジェクトへの招待を表示します。このビューで共有オブジェクトを管理できます。
- **ごみ箱**はごみ箱のオブジェクト数とそのオブジェクトに使用されるストレージスペースを表示します。オンライン接続がある場合、ゴミ箱のオブジェクトは個別に表示されます。その場合、オブジェクトを復元できます。
警告：ごみ箱からオブジェクトを削除すると元に戻すことはできません。
ゴミ箱のすべてのオブジェクトを完全に削除するには、**ゴミ箱を空にする**をタップします。

2. フォルダを開くには、フォルダをタップします。

3. 機能バーで、目的の機能を選択します：

- ビューを選択するには、右側にあるメニューアイコンをタップします。
- オブジェクトをソートするには、左側のソート条件をタップします。
- オブジェクトを検索するには、**検索** アイコンをタップします。検索用語を入力します。名前に検索用語を含むオブジェクトが表示されます。

関連トピック

- オフラインでオブジェクトを利用可能にする (p. 25)
- 新規オブジェクトの作成 (p. 25)
- オブジェクトを管理 (p. 26)
- ブラウザでOffice ドキュメントを編集 (p. 27)
- ファイルをモバイルデバイスにエクスポートする (p. 27)
- オブジェクトの共有 (p. 28)
- 写真やビデオのための特殊な機能を使用 (p. 29)

4.2.2 オフラインでオブジェクトを利用可能にする

オブジェクトをオフラインで利用可能にするには、サーバーからモバイルデバイスへオブジェクトをダウンロードします。

Androidモバイルデバイスで単一のオブジェクトをオフラインで利用可能にする

1. ファイルとフォルダのリストで、目的のオブジェクトを選択します。
オブジェクト名の隣にあるメニューアイコンをタップします。
2. **オフラインで利用可能にする**を有効にします。
オブジェクトがモバイルデバイスへダウンロードされます。**オフラインで利用可能なアイコン**^④でラベル表示されます。

ヒント：オフラインで利用可能なオブジェクトのみを表示するには、Drive アプリケーションメニューを開きます。**オフライン ファイル**を選択します。

関連トピック

- オブジェクトの閲覧、検索、ソート (p. 24)
- 新規オブジェクトの作成 (p. 25)
- オブジェクトを管理 (p. 26)
- オブジェクトの共有 (p. 28)
- 写真やビデオのための特殊な機能を使用 (p. 29)

4.2.3 新規オブジェクトの作成

モバイルデバイスによって、次のいずれかの機能を使用して新規オブジェクトを作成できます。

- 新規の写真を撮影
- 新規フォルダを作成します
- ファイル、画像、またはビデオをアップロードします

Androidモバイルデバイスで新しいオブジェクトを作成する

1. 新規オブジェクトを作成する先のフォルダを開きます。
2. 下部の**追加アイコン**[●]をタップします。
3. メニューで、目的の機能を選択します：
 - 新規の写真を撮影して、追加するには、**カメラから**を選択します。
 - 新規フォルダを作成するには、**フォルダを作成**を選択します。
 - 既存のファイルを追加するには、**ファイルをアップロード**を選択します。

関連トピック

- オブジェクトの閲覧、検索、ソート (p. 24)
- オフラインでオブジェクトを利用可能にする (p. 25)
- オブジェクトを管理 (p. 26)
- オブジェクトの共有 (p. 28)
- 写真やビデオのための特殊な機能を使用 (p. 29)

4.2.4 オブジェクトを管理

オブジェクト管理のために次の機能を使用できます：

- 単一のオブジェクトの移動、名前の変更、ゴミ箱への移動
- 複数のオブジェクトの移動、ゴミ箱への移動

Androidモバイルデバイス上で単一のオブジェクトを移動、名前を変更、ゴミ箱へ移動する

1. ファイルとフォルダのリストで、目的のオブジェクトを選択します。
オブジェクト名の隣にあるメニューアイコンをタップします。
2. メニューの利用したい機能を選択します。

Androidモバイルデバイス上で複数のオブジェクトを移動、ゴミ箱へ移動する

1. 目的のオブジェクトを含むフォルダーを開くことができます。
2. 機能バーの右側にあるメニューアイコンをタップします。選択をタップします。
チェックボックスは、オブジェクトの隣に表示されます。
3. 1つまたは複数のオブジェクトを選択します。
注：選択できない既定のフォルダーもあります。
4. 機能バーで、目的の機能を選択します。

関連トピック

- オブジェクトの閲覧、検索、ソート (p. 24)
- オフラインでオブジェクトを利用可能にする (p. 25)
- 新規オブジェクトの作成 (p. 25)
- ブラウザでOffice ドキュメントを編集 (p. 27)
- オブジェクトの共有 (p. 28)
- 写真やビデオのための特殊な機能を使用 (p. 29)

4.2.5 ブラウザでOffice ドキュメントを編集

Officeドキュメントはモバイルデバイスのブラウザで編集できます。編集するには、グループウェアをモバイルデバイスのブラウザで開き、ドキュメントをそれぞれのグループウェアアプリケーションに読み込んでください。

Office ドキュメントを開く

1. ファイルとフォルダのリストで、目的のオブジェクトを選択します。
ドキュメント名の隣にあるメニューアイコンをタップします。
2. メニューの**ブラウザで編集**を選択します。

結果：グループウェアがブラウザで開きます。それぞれのアプリケーションでファイルが表示されます。

注：Office ドキュメントの編集についての情報は、Documentsのユーザガイドを参照してください。

関連トピック

[オブジェクトの閲覧、検索、ソート \(p. 24\)](#)

4.2.6 ファイルをモバイルデバイスにエクスポートする

ファイルをモバイルデバイスにエクスポートできます。ファイルのダウンロード先のフォルダーを選択できます。

ファイルをAndroidモバイルデバイスにエクスポートする

1. 目的のファイルを検索します。
ファイル名の隣にあるメニューアイコンをタップします。
2. メニューの**デバイスにエクスポート**を選択します。ファイルを保存するデバイス上の場所を指定します。

関連トピック

[オブジェクトの閲覧、検索、ソート \(p. 24\)](#)

4.2.7 オブジェクトの共有

モバイルデバイスで読み取り権限または編集権限のあるオブジェクトを共有できます。この機能を使用して、グループウェアサーバのオブジェクトを共有できます。

Androidモバイルデバイスのオブジェクトを共有する：

1. ファイルとフォルダのリストで、目的のオブジェクトを選択します。
オブジェクト名の隣にあるメニューアイコンをタップします。
2. 次の機能のいずれか一つを選択します：
 - 内部ユーザーまたは外部パートナーに共有ファイルアクセスするための招待メールを送るには **共有に招待** を選択します。新規ページを表示します。
 - アイテムが招待ですでに共有されている場合は、その名前と権限が表示されます。
 - 共有に招待する場合は、メールアドレスを入力します。
必要に応じて、メッセージを入力します。
 - 権限を調整するには、名前の隣にあるメニューアイコンをタップします。
 - 処理を終了するには、**確定** をタップします。
 - 読み取りアクセスのついたデータの共有にパブリックリンクを使用するには、**共有リンクを作成** を選択します。新規ページを表示します。
 - リンクを送りには、**コピー**または**次を使用してリンクを共有**をタップします。
 - リンクとパスワードの有効性を設定するには、**リンク設定**をタップします。

Androidモバイルデバイスでオブジェクトの共有を管理する：

1. Drive アプリケーション メニューを開きます。自分の共有ファイルを選択します。
2. 共有アイテムリストで、目的のオブジェクトを選択します。
アイテムをタップします。
共有アイテムを編集します。

注：共有ファイル、または権限に関する全般的な情報は、グループウェアのユーザ ガイドを参照してください。

関連トピック

- オブジェクトの閲覧、検索、ソート (p. 24)
- オフラインでオブジェクトを利用可能にする (p. 25)
- 新規オブジェクトの作成 (p. 25)
- オブジェクトを管理 (p. 26)
- 写真やビデオのための特殊な機能を使用 (p. 29)

4.2.8 写真やビデオのための特殊な機能を使用

モバイルデバイスでは、写真やビデオ用の追加機能も利用できます：

- サーバ側で存在する個人用写真の概要を表示する。
- サーバから携帯電話のフォトギャラリーに写真またはビデオをコピーする。

サーバーの個人用写真の概要を表示する

1. Drive アプリケーション メニューを開きます。
2. **すべての画像** を選択します。サーバ上の個人用フォルダにある写真やビデオを表示します。
内容をソートするには、機能バーの右側のソート条件をタップします。
ビューを変更するには、機能バーの右側にあるアイコンをタップします。

サーバからモバイルデバイスのフォトギャラリーにコピーする

1. 写真やビデオの入ったフォルダを選択します。サーバ上のフォルダの写真やビデオが表示されます。
2. 写真またはビデオ名の隣にあるメニューアイコンをタップします。
デバイスにエクスポートを選択します。
3. フォルダーを選択できます。
保存をタップします。

関連トピック

- オブジェクトの閲覧、検索、ソート (p. 24)
- オフラインでオブジェクトを利用可能にする (p. 25)
- 新規オブジェクトの作成 (p. 25)
- オブジェクトを管理 (p. 26)
- オブジェクトの共有 (p. 28)

4.2.9 Androidモバイルデバイス上での設定

AndroidモバイルデバイスでDriveアプリケーション設定を使用する

1. Drive アプリケーションで、メニュー アイコンをタップします。
2. **設定** を選択します。

次の設定が利用できます：

- **サインアウト**
サイン アウトします。同期を停止します。警告：すべてのアプリケーションデータがデバイスから削除されます。
- **ストレージスペース**
グループウェアサーバーの割当量の上限に関する情報が表示されます。
- **Wifi接続中にのみ同期**
ワイヤレス接続がある場合データのみが転送され雨かどうかを指定します。
- **カメラアップロード設定**
新しい写真とビデオをアップロードするかどうかを指定します。
- **ダークモード**
ユーザ インターフェースの配色を指定できます。
- **アプリケーションをロック**
アプリケーションを閉じるときにロックするかどうかを指定します。さらに、ロックを遅延後に起動するかどうかも指定できます。アプリケーションのロックを解除するには、モバイルデバイスのスクリーンのロック解除で使用方法を使用します。
- **詳細設定**
ほとんど使用しない設定も含まれます。
 - モバイルデバイスに読み込み中にファイルを転送だけします。
 - キャッシュ サイズを設定
 - ログファイルを作成

4.3 iOSモバイルデバイス

iOSモバイルデバイスでDriveアプリケーション設定を使用する方法を学ぶ

- iOSモバイルデバイス用Driveアプリケーションのプロパティ (p. 32)
- iOSモバイルデバイス用Driveアプリケーションを使用する (p. 32)

4.3.1 iOSモバイルデバイス用Driveアプリケーションのプロパティ

iOSモバイルデバイス用Driveアプリケーションには次のプロパティがあります：

- インストールおよび設定後、DriveはもともとのiOSファイル Appに統合されます。
- iOS ファイル Appでは、個人用Driveフォルダーを保存場所として利用できます。
- iOS ファイル Appで、フォルダーやファイルの作成、編集、検索、整理が可能です。Driveアプリケーションはグループウェアサーバーと変更を同期します。
- 共有リンクを作成、編集できます。

関連トピック

[iOSモバイルデバイス用Driveアプリケーションを使用する \(p. 32\)](#)

4.3.2 iOSモバイルデバイス用Driveアプリケーションを使用する

次のようなオプションがあります。

- ファイル AppとiOS機能を使用して、Driveデータの表示や編集ができます。DriveフォルダーがiOS ファイル Appに表示されない場合は、iOS ファイル AppのDriveフォルダーが保存場所として有効になっていることを確認してください。どのようにするかは、Driveアプリケーションのバージョン情報をタップしてください。チュートリアルをタップします。
- モバイルデバイスで共有リンクを作成して、グループウェアサーバーのオブジェクトを共有できます。
- モバイルデバイスで共有リンクを編集、または削除できます。

Driveデータを編集する：

1. Driveデータを表示するには次のオプションがあります：
 - Drive アプリケーションで、**ファイルを開く**をタップします。
 - ファイル Appで**ブラウズ**をタップします。保存場所の下にある**Drive**をタップします。個人用Driveフォルダーのコンテンツが表示されます。
2. ファイル AppとiOS機能を使用してデータを編集します。ファイル Appの詳細は、iOSの公式サポートウェブサイトを参照してください。

共有リンクを作成をクリックする：

1. Driveデータを表示するには次のオプションがあります：
 - Drive アプリケーションで、**ファイルを開く**をタップします。
 - ファイル Appで**ブラウズ**をタップします。保存場所の下にある**Drive**をタップします。個人用Driveフォルダーのコンテンツが表示されます。
2. ファイルまたはフォルダー上に指を置きます。クイックアクション付きのメニューが表示されます。
3. **リンクを作成**をクリックします。
4. 利用期限やアクセス用パスワードを設定できます。**作成**をタップします。オブジェクトの共有リンクが作成されます。機能を使用して、共有リンクを人やアプリケーションへ送ることができます。

共有リンクを編集する：

1. Driveデータを表示するには次のオプションがあります：
 - Drive アプリケーションで、**ファイルを開く**をタップします。
 - ファイル Appで**ブラウズ**をタップします。保存場所の下にある**Drive**をタップします。個人用Driveフォルダーのコンテンツが表示されます。
2. 共有リンクを含むファイルまたはフォルダー上に指を置きます。クイックアクション付きのメニューが表示されます。
3. **リンクを編集**をタップします。
4. 利用期限やパスワードを変更できます。
共有リンクを人やアプリケーションに送る機能を使用するには、オブジェクト名の右上側のアイコンをタップします。
この機能で、共有リンクを他の人に送ることができます。
共有リンクを削除するには、**リンクを削除**をタップします。

関連トピック

[iOSモバイルデバイス用Driveアプリケーションのプロパティ \(p. 32\)](#)

4.4 利用ガイドライン

パスワードの変更

Driveではパスワードは変更できません。ドライブ はグループウェアへのアクセスの場合と同じパスワードを使用します。

名前の制限

ファイルやフォルダを正常に同期させるには、これらの名前に特定の文字を含めないでください。

- 次のいずれかの文字がファイル名やフォルダ名にあると、それらのファイルやフォルダは同期されません。
<> : " / \ | ? *
- 次のすでに使用されているデバイス名がファイル名やフォルダ名にあると、それらのファイルやフォルダは同期されません。
CON, PRN, AUX, NUL, COM1, COM2, COM3, COM4, COM5, COM6, COM7, COM8, COM9, LPT1, LPT2, LPT3, LPT4, LPT5, LPT6, LPT7, LPT8, LPT9
- 次のファイルは同期されません。
desktop.ini, Thumbs.db, .DS_Store, icon\r
拡張子が .drivepart のファイル
Office アプリケーションでロックされたファイルなどの一時ファイル
- 次のフォルダは同期されません。
/.drive

ソフトウェアの開発状態によって、同期されないファイルやフォルダが増える可能性があります。

ファイル名の大文字と小文字

一部のシステムでは、フォルダ内のファイル名は大文字と小文字が区別されます。ローカル フォルダにそのようなファイルを作成する場合、そのうちの 1 つのみが同期されます。ローカル フォルダでは、大文字と小文字が異なるだけのファイル名は使用しないでください。

Windowsのファイル名およびパス名の長さ

Windowsコンピューターのデータは、ファイル名またはパスが255文字を超えない場合にのみ同期可能です。

複数のファイルを一度に編集しないでください。

データの損失を防ぐため、ローカル フォルダとリモート フォルダのファイル、または複数のクライアントのファイルを同時に編集しないでください。

ファイル バージョン

ローカル フォルダのファイルを変更した場合、Driveでは、リモート フォルダに新規のバージョンのファイルが作成されます。ローカル フォルダでは、最新のバージョンのファイルのみが表示されます。

索引

シンボル

インストール

モバイルデバイスへの, 11

コンピューター

Driveアプリケーションを閉じます。 , 20

Finder Extension を有効にする, 16

macOS、パブリックリンクを使った共有, 18

macOS、招待を使った共有, 19

Windows、データを共有, 17

インストール, 10

ブラウザでOffice ドキュメントを編集, 16

ブラウザにファイルを表示, 16

同期を一時停止, 20

同期データを表示, 15

同期フォルダを変更, 15

ドキュメント, 5

フォトストリーム フォルダ, 29

モバイルデバイス

iOSモバイルデバイス用 Drive アプリケーションのプロパティ, 32

iOSモバイルデバイス用 Drive アプリケーションを使用, 32

利用ガイドライン, 34

注

Windowsのファイル名およびパス名の長さ, 34

注:

ファイル バージョン, 34

名前の制限, 34

注意

ファイル名の大文字と小文字, 34

複数のファイルを一度に編集しないでください, 34

注:

パスワードの変更, 34

設定、Androidモバイルデバイス, 30

Wifi接続中にのみ同期, 30

アプリケーションをロック, 30

カメラからのアップロード設定, 30

サインアウト, 30

ダークモード, 30

割当量, 30

詳細設定, 30

設定、コンピューター, 21

macOS, 22

Windows, 21

A

Android モバイルデバイス

オフラインでオブジェクトを利用可能にする, 25

オブジェクトを作成, 25

オブジェクトを共有, 28

オブジェクトを整理, 26

データの表示、検索、ソート, 24

ブラウザでOffice ドキュメントを編集, 27

Androidモバイルデバイス

ファイルをモバイルデバイスにエクスポート, 27

転送された写真やビデオを表示, 29

D

Drive :

Androidモバイルデバイスのアプリケーションバージョンを使用, 23

iOS モバイルデバイスアプリケーションの使用, 31

Drive : Windows または MacOS コンピューターのアプリケーションを使用, 14

Driveアプリケーション, 7

Driveアプリケーションを

インストールします, 9

使用, 13

M

macOS

Finder Extension を有効にする, 16
